

きゅうしゅう

NO.71



8月、西海市の横瀬浦公園での夏祭りを楽しむ日米の皆さん（提供：米海軍）

目次 CONTENTS

- 1. 部隊紹介 : 米海軍佐世保基地
- 2. 自治体紹介 : 長崎県西海市
- 3. 業務紹介 : 佐世保防衛事務所
- 4. インフォメーション : 令和7年度優秀工事等顕彰状授与式ほか



防衛省と地域社会との協力を
象徴するエンブレム

九州防衛局 Kyushu Defense Bureau

<https://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

編集・発行 九州防衛局 総務部 福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎 TEL092-483-8811

1. 部隊紹介



Commander, Fleet Activities Sasebo

米海軍佐世保基地司令官

Capt. Michael Fontaine

マイケル・フォンテン大佐



九州防衛局の広報誌「きゅうしゅう」の読者の皆様、ご挨拶申し上げます。九州にある唯一の米海軍施設である米海軍佐世保基地で、司令官を務めておりますマイケル・フォンテン大佐です。このたび、米海軍佐世保基地および基地を拠点とする前方展開海軍戦力(FDNF)の重要性について紹介し、皆様のご関心を深めていただく機会を得られたことを、大変光栄に存じます。

米海軍佐世保基地は、佐世保港周辺に位置する11の独立した施設で構成されています。これらの施設には、メインベースの複合施設、弾薬施設(2箇所)、燃料貯蔵施設(3箇所)、ドライドック、米軍住宅地(3箇所)、およびレクリエーションパーク施設があります。約6,500人のアメリカ人基地関係者が佐世保にて生活し、勤務しています。内訳は、約3,500人の軍人と450人の民間従業員、および彼らの家族から構成されています。また、私たちは、防衛省の現地従業員約1,800名から支援を受けております。

米海軍佐世保基地には、米海軍第7艦隊所属の揚陸艦4隻、掃海艦4隻が前方配備されており、私たちはトリポリ水陸両用即応群の配備拠点として機能しています。これは、米海軍において唯一前方配備されている水陸両用即応群です。これら配備艦の支援に加え、米海軍佐世保基地とそのテナント部隊は、米国および同盟国の部隊に対して、燃料や弾薬の貯蔵・供給をはじめ、艦船の修理や整備など、重要な後方支援を提供しています。また、米海軍佐世保基地は、米海軍と海上自衛隊の艦隊が同じ施設内に共存している点で、ユニークな海軍基地です。

艦隊を支援する主要な任務に加え、私たちのホストシティである佐世保市や西海市、そして自衛隊との強固な関係の構築・維持に努めています。毎年、多くの地域交流イベントを開催し、米海軍佐世保基地と地元の日本の皆様との交流を深めています。例えば、多くの方々にご参加いただいた、「佐世保フリートフレンドシップデーオープンベースイベント」などがあります。九州防衛局のご尽力とご支援により、米海軍佐世保基地は、地元のコミュニティと良好な関係を築いており、佐世保は米海軍の人員にとって引き続き選ばれる任務地となっています。

米海軍佐世保基地と私たちの前方配備艦船は、日米安全保障条約およびアジア太平洋地域の安定に対する米国のコミットメントを支える重要な要素です。私たちは、九州防衛局の絶え間ないご支援に深く感謝しています。これにより、私たちは任務の即応性を維持し、地域社会の一員として引き続き歓迎される存在であり続けています。読者の皆様には、佐世保を訪問し、日米の成功した二国間パートナーシップを直接ご覧いただく機会を、ぜひ設けていただきたいと思います。願っております。



佐世保配備艦



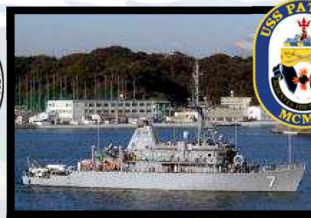
掃海艦チーフ



掃海艦パイオニア



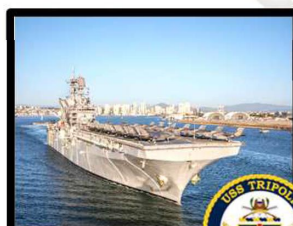
掃海艦パトリオット



掃海艦ウォリアー



強襲揚陸艦トリポリ



ドック型揚陸艦ラシュモア



ドック型輸送揚陸艦
ニューオリンズ



ドック型輸送揚陸艦
サンディエゴ



艦隊支援

弾薬部



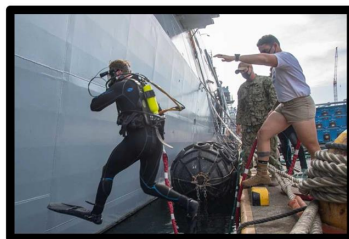
前畑と針尾島の弾薬部は西太平洋の全米海軍・海兵隊が所有する弾薬の多くを保管し、修理・改修を行う能力を持ちます。

貯油所



米海軍がこの地域で所有する燃料全体の多くが赤崎、庵崎、横瀬の貯油所で保管されています。国防総省最大の燃料タンクで世界最大の量を貯蔵できます！

艦船修理廠



佐世保配備艦と寄港した艦船は艦船修理廠の岸壁とドライドックで修理されます。

補給部



部品、燃料、食料、郵便物など艦隊が必要なものはすべて港で補給されます。艦船が海上にいる場合は、補給船や航空機で艦船まで運搬します。

佐世保フリートフレンドシップデー

フリート・フレンドシップ・デーは、米海軍、自衛隊、および地域の日本人コミュニティ間の友情とパートナーシップを祝う、毎年開催されるオープンベースのイベントです。今年は1万1千人以上の来場者をお迎えし、艦船見学やデモンストレーション、展示物を通して私たちの活動について理解を深めていただき、ライブエンターテインメントや各種アクティビティ、出店、花火などを、私たちの海軍兵士や自衛隊員、その家族と一緒に楽しんでいただきました。



陸上自衛隊の強襲揚陸艦（AAV7）は、ジュリエットベースンで、デモンストレーションを行い、操縦技術を披露しました。



来場者は強襲揚陸艦アメリカを見学し、乗組員と交流しました。



一般公開された2隻の米海軍艦船と6隻の海上自衛隊艦船には、長い列ができました。



強襲揚陸艦アメリカ艦上で展示された米海兵隊のMV-22Bオスプレイを、多くの来場者が見学しました。



米海軍のエアークッション型揚陸艇（LCAC）やその他の艦艇によるデモンストレーションは、来場者を驚かせました。



フレンドシップデーには、県内外から1万1千人を超える来場者にお越し頂き、米海軍佐世保基地の年間最大の地域交流イベントとなりました。



沖縄から飛来した、米海兵隊MV-22Bオスプレイは、艦船見学の一環で、強襲揚陸艦アメリカに飛来しました。



来場者は、米海軍や自衛隊の各階級の隊員やその家族、そして基地で働く多くの民間人と交流しました。

2. 自治体紹介

長崎県西海市

～ 市長 あいさつ ～



西海市長 瀬川 光之

西海市は、今年4月1日に市制施行20年を迎えました。

本市は、長崎県の北西部に位置し、三方を海に囲まれ、大小の島々と複雑な形の海岸線など美しい豊かな自然環境のもと、農業、漁業、林業の一次産業が市民の生活を支え、造船業、製塩業、火力発電所といった基幹産業が雇用を支えています。

農林水産業の振興をはじめ、あらゆる産業の発展を後押しし、市政のさらなる発展を目指します。

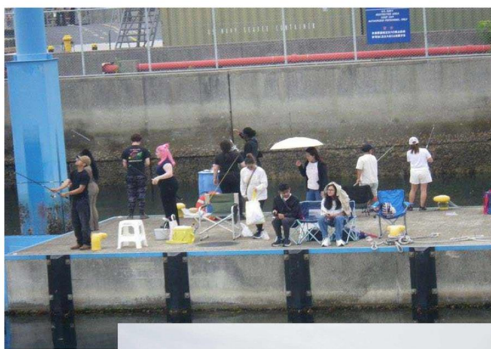


日米友好親善のシンボル
ハナミズキ

～ 西海市の米海軍基地との関わり ～

西海市には、米海軍佐世保基地横瀬貯油所があります。基地内にはL C A C施設が整備されています。

地域住民と米海軍佐世保基地との親睦と交流を深めるため、米軍・西海市親善・交流魚釣り大会、米軍基地・西海市親善ソフトボール大会、日米交流演奏会in西海などを開催しています。また、日米友好親善のシンボルとして横瀬浦公園にハナミズキの植樹を行っています。その他に、夏祭りなどでも米海軍佐世保基地を招待し交流があります。



第2回米軍・西海市親善・交流 魚釣り大会

(開催日) 令和7年6月8日

横瀬基地内で、魚釣りの他、風船飛ばしや食事会、スイカ割りなどのイベントを行っています。



第17回米軍基地・西海市親善ソフトボール大会

(開催日) 令和6年10月20日

横瀬浦公園グラウンドで、日米対抗で3試合行った他、子供たちの交流遊びなどを行い交流を深めています。

～ 西海市の観光スポット ～

日本初の
キリシタ
ン大名・
大村純忠
が開港し
、ポルト
ガル人宣
教師ルイ
ス・フロ
イス上陸



横瀬浦公園

の地とされる横瀬浦にある公園。展望台からは、かつて南蛮船の目印とされた白い十字架の建つ「八ノ子島」や港町の風景が楽しめます。

明治時代、
佐世保軍
港の防備
のため設
置された
石原岳堡
塁跡を整
備した公
園。当時
の佇まい



石原岳森林公園

を残す雰囲気たっぷりの要塞跡は、歴史好きのみならずとも興奮すること間違いなし。散策路や炊事棟も整備され、キャンプも楽しめます。

湖畔と緑
豊かな
木々に囲
まれた、
アウトド
ア派に人
気の自然
体感型・



伊佐ノ浦公園

水辺のリゾート。コテージ・バンガロー、キャンプ場を整備しており、ポート遊びに釣り、サイクリングやクラフト体験が楽しめます。

伊ノ浦瀬
戸をまた
ぐ2本の
橋のふも
とにある
総面積
36.8ヘ
クタール
の観光型
公園。ア
ス



西海橋公園

レチック広場をはじめ、海浜広場や展望台もある人気スポットです。日本三大急潮の一つとされるうず潮は見もの。

～ 西海ブランド“ぎゅぎゅっと！西海” ～

“ぎゅぎゅっと！西海”とは？

西海市では、豊かな自然がもたらす恵み、交流によって育まれる歴史・文化、それらを活かす人々の想いによって、多くの産品が生み出されています。その中から、厳選した産品や観光資源をぎゅぎゅっと詰め込み、西海ブランド“ぎゅぎゅっと！西海”が誕生しました。

“ぎゅぎゅっと！西海”の仲間は現在18品。

西海市の豊かな自然の中で生まれ、生み出された産品をぜひ一度ご賞味ください。



3. 業務紹介

佐世保防衛事務所

佐世保防衛事務所は、九州防衛局の出先機関として、長崎県内（対馬市及び壱岐市を除く。）を管轄区域とし、所長以下13名の職員が、業務課、施設課並びに労務対策官の各所掌を持ちつつも、連携しながら業務を行っています。

当事務所が所在する佐世保市は明治22年7月、佐世保鎮守府が開庁されて以来、西海鎮護の要として発展してきた歴史ある自治体です。

このような歴史的経緯を背景として、現在も佐世保市には、米海軍の専用施設が8施設、佐世保地方総監部を始めとする海上自衛隊施設及び水陸機動団が配置されている陸上自衛隊相浦駐屯地など様々な防衛施設が所在しています。

さらに当事務所管轄区域には佐世保市のほか、西海市に米海軍の横瀬貯油所、大村市に第3水陸機動連隊が配置されている陸上自衛隊竹松駐屯地及び大村駐屯地並びに海上自衛隊大村航空基地、五島市に航空自衛隊福江島分屯基地など多くの防衛施設が所在しています。

佐世保地区（佐世保市、西海市）は九州防衛局管内で唯一、米軍の部隊が常駐しており、米軍施設の円滑かつ安定的な使用の確保及び地域との良好な関係維持の窓口としての役割を果たしていることも佐世保防衛事務所の大きな特徴です。

担当の業務について



(1) 業務課

所内の総務及び会計業務、九州防衛局が行う建設工事等に伴い生じた発生材の検収及び管理業務並びに米軍の事件・事故に伴う賠償請求に係る資料の収集等を行っています。

(写真は事故補償に伴う米軍との打合せ)



(2) 施設課

防衛施設の安定的な使用の確保に係る米軍、自衛隊、地方自治体、関係団体及びその他の関係者との連絡・調整並びに調査や資料の収集等を行っています。

(写真は下士官宿舎テープカット式)



(3) 労務対策官

米軍が必要とする労働力を駐留軍労働者として雇用契約を締結の上米側へ提供し、雇用主として米側が発議する人事措置の審査と実施、給与の支払い、そのほか永年勤続者表彰等の福利厚生事務を行っています。

(写真は在日米軍従業員永年勤続者表彰式)

これらの業務を通じて佐世保防衛事務所は地域と防衛省・自衛隊との懸け橋として皆様のご理解・ご協力を頂けるよう取り組んでいます。

4. インフォメーション

いとう かずみ

伊藤 和己 九州防衛局長着任のご挨拶

私が防衛省に入って約30年になりますが、この間、日本を取り巻く安全保障環境は格段に厳しくなっています。将来世代が主役となる10年、20年後を想像すると決して楽観することもできません。

そのような中、我が国は、防衛力の抜本的強化を進めており、九州7県にも様々な施策や事業が進められてきています。これらを円滑に進めていくためには、関係地方公共団体等の理解と協力が重要であり、九州防衛局は地域との信頼関係の維持・向上に全力で取り組んでまいります。

九州の防衛施設と関係地域との歴史は長く、自衛隊員やその家族を含め、様々な交流を通じて共存共栄の関係を構築してきていると認識しています。私も、小学生の頃、鹿児島で暮らしたことがあり、九州の歴史や風土に愛着を感じています。私も同じコミュニティの一員として受け入れて頂けるよう誠実に取り組みますので、よろしくお願いいたします！



令和7年度優秀工事等顕彰状授与式

九州防衛局及び熊本防衛支局では、前年度に完成した工事及び業務の中から選ばれた受注者及び技術者に優秀工事等顕彰状を授与しています。

本年度は、九州防衛局においては7月11日、選ばれた17社と技術者13名に対し、熊本防衛支局においては同月28日、選ばれた22社と技術者27名に対し、それぞれ同顕彰状が授与されました。



これは、同局・同支局が発注する建設工事や設計業務等のうち、困難な条件下にもかかわらず他の模範とするにふさわしい工程管理や安全管理に優れた施工や業務を行った方に、防衛施設工事における更なる技術力の向上や受注意欲を高めることを目的として授与されるものです。

今後とも、本制度が入札参加者の受注意欲を高め、工事目的物の品質確保を図る等、円滑な施設取得の推進に資するものになりたいと思います。

令和3年度計画「もがみ型」護衛艦7番艦「によど」引渡式・自衛艦旗授与式

令和7年5月21日（水）、長崎県長崎市に所在する三菱重工株式会社長崎造船所にて、護衛艦「によど」の引渡式が行われました。

これに引き続き自衛艦旗を授与された同艦は、初代艦長 渡邊大志郎 2等海佐指揮の下、乗組員は毅然とした態度で乗艦し、配備先である呉に向け出港しました。

同艦は、平成30年度から建造を開始したガスタービン主機とディーゼル主機を組み合わせた推進方式であるCODAGを採用した「もがみ型」護衛艦の7番艦であり、基準排水量3,900トン、全長133.0メートル、最大幅16.3メートル、深さ9メートル、速力30ノット以上の最新鋭の護衛艦となっています。

また、「によど」は、姉妹艦のなかで初めて、垂直ミサイル発射システム（VLS）を就役時から搭載していることが特徴となっています。

同艦は、令和4年6月起工、令和5年9月進水後、ぎ装工事及び海上公試を行いました。長崎防衛支局は同艦の完成に対し建造工事の監督及び検査を担当しました。



▲防衛装備庁代表へ引渡書を手渡す。



▲初代艦長へ自衛艦旗を授与



▲出港する護衛艦「によど」

令和4年度計画 海洋観測艦 命名・進水式 艦名「あかし」

令和7年5月29日（木）、山口県下関市に所在する三菱造船株式会社江浦工場にて、福田佐世保地方総監執行のもと齋藤海上幕僚長、堀江防衛技監、杉浦長崎防衛支局長（当時）をはじめ多くの関係者が見守る中、令和4年度計画海洋観測艦の命名・進水式が執り行われました。

同艦は、齋藤海上幕僚長により「あかし」と命名されたのち、会社側からの進水準備完了の報告を受け支綱が切断され、佐世保音楽隊が奏でる軍艦マーチ、号砲とともに舞う色とりどりの風船のなか進水しました。

艦名は、兵庫県明石市の名所である明石の浦（景勝地）に由来します。旧海軍防護巡洋艦及び工作艦「明石」、海上自衛隊では昭和42年度計画の海洋観測艦「あかし」に続く4代目であり、先代は日本鋼管鶴見造船所（現 ジャパンマリンユナイテッド株式会社鶴見工場）で建造されています。

長崎防衛支局は、令和8年3月の就役に向け、ぎ装工事及び海上公試等の監督・検査に万全を期してまいります。



▲齋藤海上幕僚長により「あかし」と命名



▲海洋観測艦「あかし」進水

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

夜間及び休日の連絡先

電話：(092) 483-8832 (自動音声による案内)

平日は17時15分から翌朝8時30分まで
休日は終日